

西府崖線保全活動

後世に残そう
ハケと湧水！

No.9

平成25年 秋の清掃活動とネームプレート取付け作業のお知らせ

秋の清掃活動

10月27日(日)に実施

西府崖線秋の清掃活動(通算5回目)を以下の要領で実施します。多くの方々の参加をお待ちしています。

記

- 日 時 10月27日(日)
- 集合場所 西府崖線ハケ下 あずまや前
- 清掃場所 ①あずまや前～大山道
②あずまや前→カッパ池(右写真)→本宿町緑地→ハケ上
- 持ちもの 手袋 マスク 帽子 長靴 長袖上着
- 荒天中止 雨天の時は朝8:30に葛西へ連絡してください。中止の時は来春に実施。

当日の時間割

- ①集合時間 会員9:45 市民10:00
- ②清掃作業 10:00～
- ③作業終了後、あずまやで茶話会。12:00には終了



2面の記事にある水のない状態が続くカッパ池。おかしな頭の上の皿が乾ききっている。左側は隣接するNEC所有の三角形の空地

ネームプレート取付け作業

ネームプレート取付け作業(通算4回)を左記の清掃活動終了後に実施します。過去3回の合計は74本となります。基本的に作業は府中かんきょう市民の会の会員で行っていますが、時間のある方は見学してってください。

なお、清掃もネームプレート作業も手袋、帽子、マスク、長靴、長袖上着をご用意ください。崖線(ハケ)には多様な生物が棲息していますので、肌を露出するのは避けた方がよいからです。



水枯れ状態が続く河童像は、 水辺を得ることができるか！

日時 6月29日(土) 曇り
会場 本宿公会堂 参加者 21人
演題 「河童も棲みたくなる水辺づくり」
講師 加藤正之氏 認定NPO法人・自然環境復元協会理事
上級環境再生医 一級建築士 都留文科大学非常勤講師

講演会のポイントと印象…「協働」も考える

加藤講師は、静岡県三島市で「グラウンドワーク三島^④」の活動として源兵衛川の再生事業に関わり、清流を復活させた。その方式は住民・行政・企業(東レ)による「協働」である。また、西国分寺駅近くの「姿見の池」の再生事業を手掛けられたことでも知られている。

④ グラウンドワーク=1980年代初頭に英国で始まった市民・NPO・企業・行政とのパートナーシップによる身近な環境改善を進める実践的活動。グラウンドワーク三島が日本で最初にその手法を導入した。

いま府中市でも、市民との「協働」が行政側から最重点項目として取上げられている。しかし、10年前の平成15年には「府中市NPO・ボランティア活動及び協働の推進に関する指針」、同17年には職員用として「NPOとの協働推進マニュアル」が作成されている。いずれも、立派な文章である。

いま、改めて問題提起されるのは、未だに府中市では浸透していない証左である。その対策として、三島市を始め横浜市、目黒区、練馬区などの先進自治体に職員を志向させ、あるいは、成功事例を公開して職員の研修システムに組入れるなどの工夫が必要ではないだろうか。

「協働」とは目的が一致する範囲内で協力し、パートナーとなる住民・NPO・行政・企業に優劣、上下関係がないことだ。日本は成熟社会であるといわれるが、そうだとすると「協働」は時代の大きなうねりである。しかし、間違っても安上がり行政の下請けであってはならない。

以下は、講師の発言と資料から断片的であるが印象深い箇所をいくつかあげ、併せて私の考えを述べる。

- 1、川普請⇒「普請」は通常、寺院・家屋・道・橋などの建設と修理に使われる言葉であるが、仏教語として世間においてお願いして労役に従事してもらうがある。言い得て妙だ。
- 2、現代の子どもはハンディを背負っている⇒人間のためによりよい生態の確保のためには、子ども時代における自然との関わりの欠如が、その後の人生にハンディを負わせる。現在の子供はPC・ケータイが当たり前で、自然との関わりが薄く、その後の人生に悪影響を及ぼす。
- 3、昔のモデルを探す⇒川(自然)等を再生するためには昔のモデルがヒントとなる。たとえば源兵衛川を再生するにしても、どう再生するかは、川の流れのどこかにある昔

のよきイメージをヒントとする。

- 4、自然の再生が社会活動、経済、人口増加につながる⇒川(自然)の再生が地域の誇り(=自慢あるいは売り)と住民の絆を復活させ、水辺環境の修復が地域を活性化させて人口増加(子育て世代の転入)につながる。
- 5、もし、NECの協力によりC案のカップ池が完成したら、その旨の看板を設置⇒1面の図C案は、源兵衛川再生のミニ版となり、住民・行政・企業(NEC)の協働となる。NEC社員の通勤経路とも重なり、池がNECの協力でできた旨の看板を設置する。そうするとさらに企業イメージがアップし、住民にも歓迎されて快適環境の実現となる。

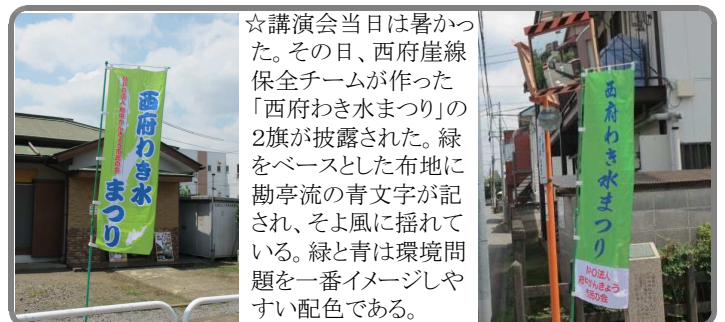
講師は、水枯れ状態が続くカップ池(日新町1-5-2)の再生に関して3つの提案をされた。

- A案 現況をあまり改変せずに昔の水路のイメージに改修
B案 市川用水をそのまま延伸できる場合
C案 南側隣地と一体で考える場合(1面に設計図)

ここではC案を取り上げる。その前提は南側隣地を市が買い取るか、NECが寄付あるいは提供してくれるかにかかっている。どちらにしても、そうなったらカップ池を拡張し、カップ像を池中から池畔に移す。池には中州と木橋を設置し、南側の空地(ほぼ三角形で広さは406.6㎡)を整備して雑木林を造り、散策路を設ける。樹木はハンノキ、イヌコリヤナギ、オニグルミなど。

これが実現すると、府中市において事業協力分野での、「協働」のモデルとなるのではないだろうか。(葛西利武)

チーム旗を作りました



◎西府崖線・湧水周辺的环境保全活動は、「平成25年度 府中市市民提案型市民活動支援事業」に決定されました。

会
員
募
集
中

NPO法人・府中かんきょう市民の会
発行/平成25年10月1日(火)
担当/葛西 利武 ☎ 090-5564-5838
ホームページ <http://f-env.sakura.ne.jp>
「府中市環境保全活動センター」サポーター登録団体